



第2回 分散型エネルギープラットフォームに向けて

令和元年11月1日

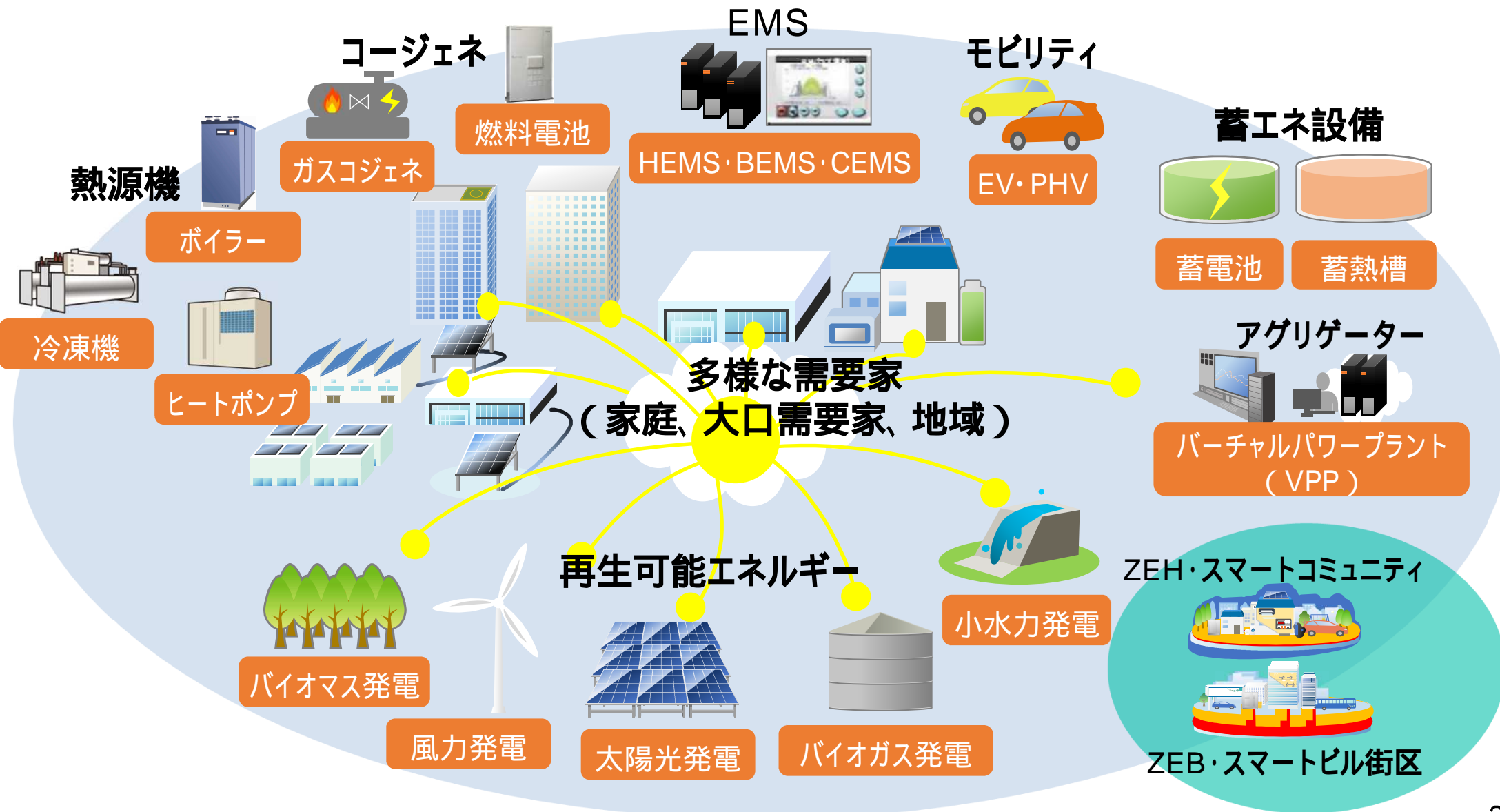
分散型エネルギープラットフォーム 事務局



1. 令和元年度 分散型エネルギー プラットフォームの全体テーマ

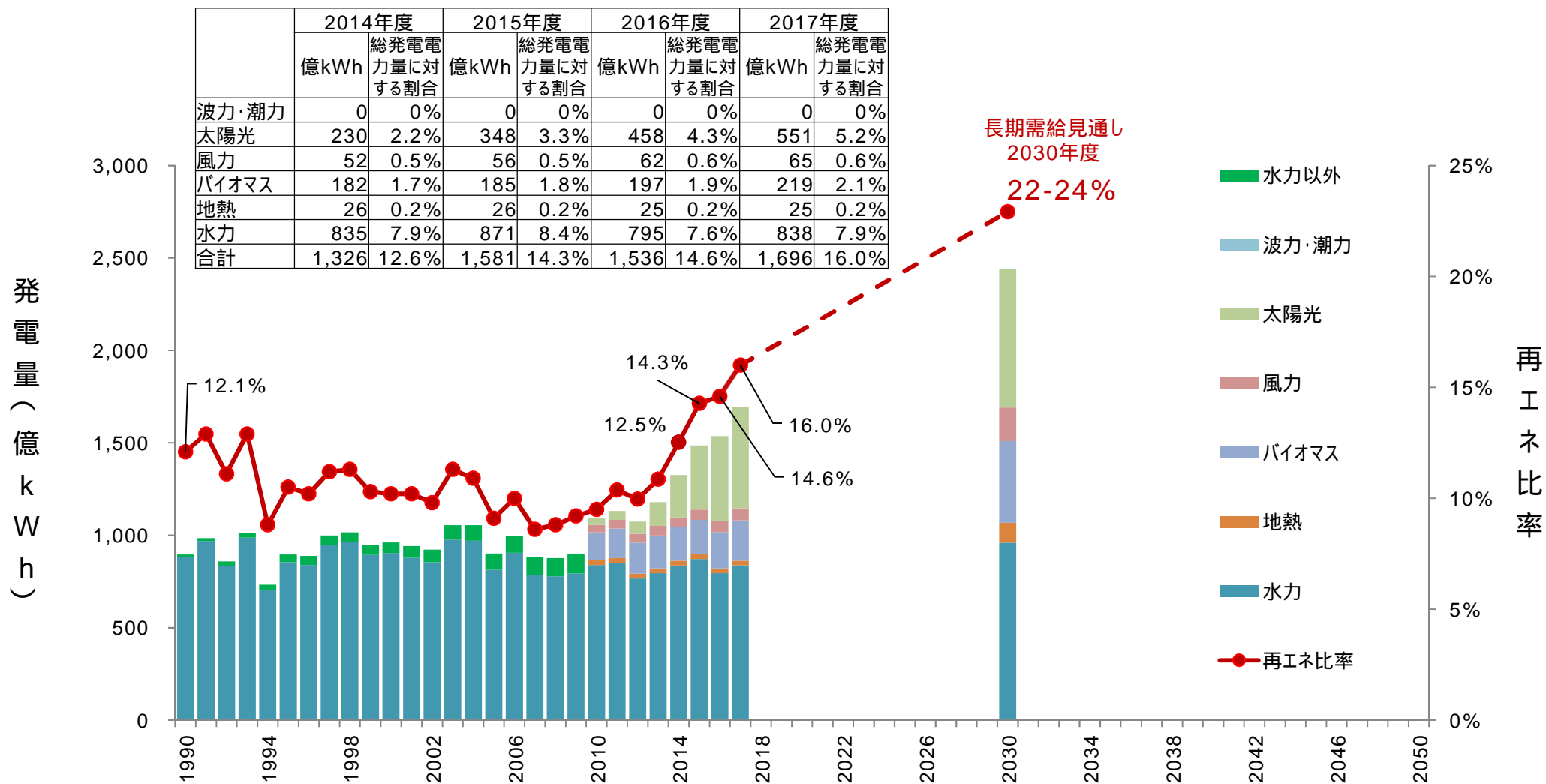
分散型エネルギーシステムの構成要素

分散型エネルギーシステムは多様なリソース・技術を構成要素として含む。



我が国における再生可能エネルギー導入状況

- 我が国の再エネ発電量は896億kWh（1990年度）から1,696億kWhへ約90%増加しており、現在の再エネ比率は16.0%となっている。



【出所】資源エネルギー庁「総合エネルギー統計 時系列表」、「長期エネルギー需給見通し」を基に環境省作成

令和元年度 分散型エネルギープラットフォームのテーマ

近年のエネルギー需給を取り巻く変化に鑑みて、
令和元年度の分散型エネルギープラットフォームでは以下を全体テーマとする。

「太陽光を中心とした需給一体型の再エネ活用モデルの普及」

再エネ活用の機運の高まり

- 太陽光コストの低下
- 卒FIT太陽光の出現
- 需要家の環境価値への求め

→ 太陽光発電を中心とした再エネへの関心

地域での利活用

- 地域のエネルギー強靱化（レジリエンス向上）への求め
- 地域活性化への貢献

→ 需給一体型モデルへの関心

分散型エネルギープラットフォームのねらい

需給一体型の再エネ活用モデルの普及に向けて

課題の整理

共創の機会創出

が必要ではないか。



工場A

- 各社のビジネスモデルが多様すぎて比較検討できない

- ニーズのある需要家がどこにいるのか把握することが難しい



提供側 B



自治体 C

- 災害時の拠点を整備したいが、どのようなモデルが良いかわからない

- FIT制度を活用しないモデルの前例が乏しい



提供側 D



家庭 E

- E V、蓄電池等、何を導入すればどのくらいメリットがあるのかわからない。

- 建屋の強度や面積が足りない

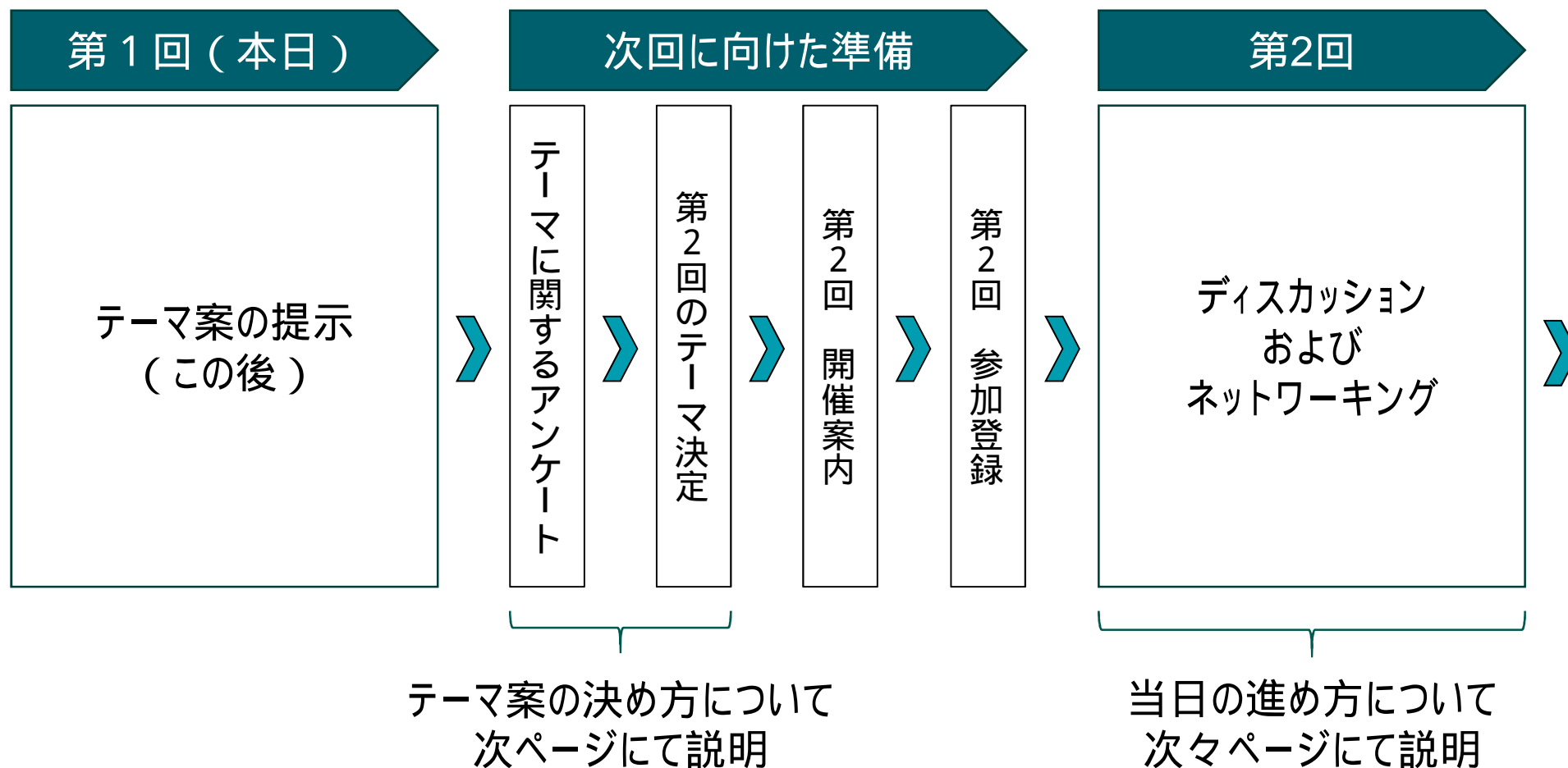


提供側 F

3. 次回以降の進め方

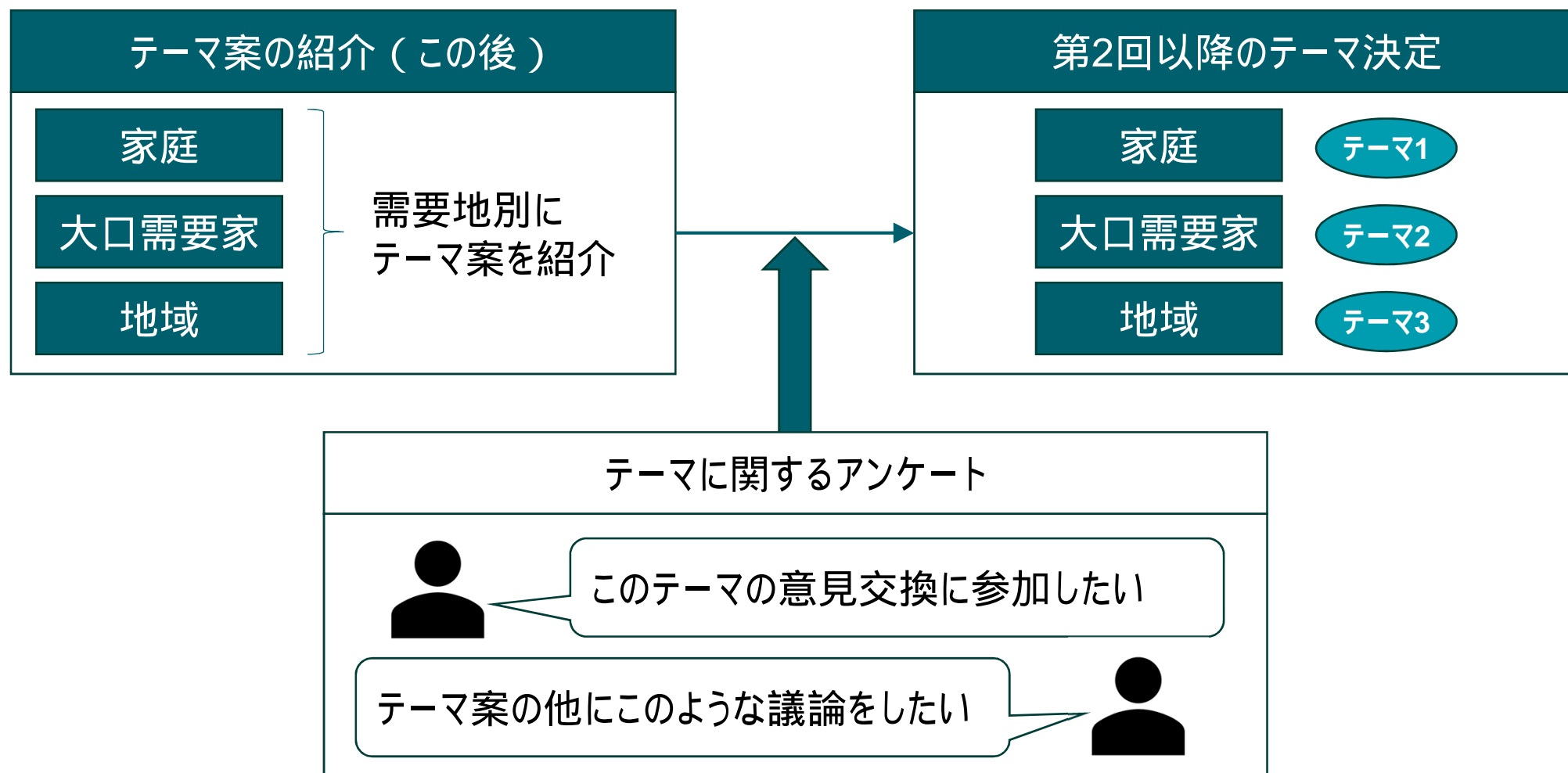
検討の進め方 次回に向けての今後の進め方

- この後提示するテーマ案について、次回までにアンケートでご意見を頂く。
- それを踏まえて次回テーマを決定し、告知する。
- 以降は、テーマで分かれてのディスカッション・ネットワーキングの場とする。



検討の進め方 テーマの決め方

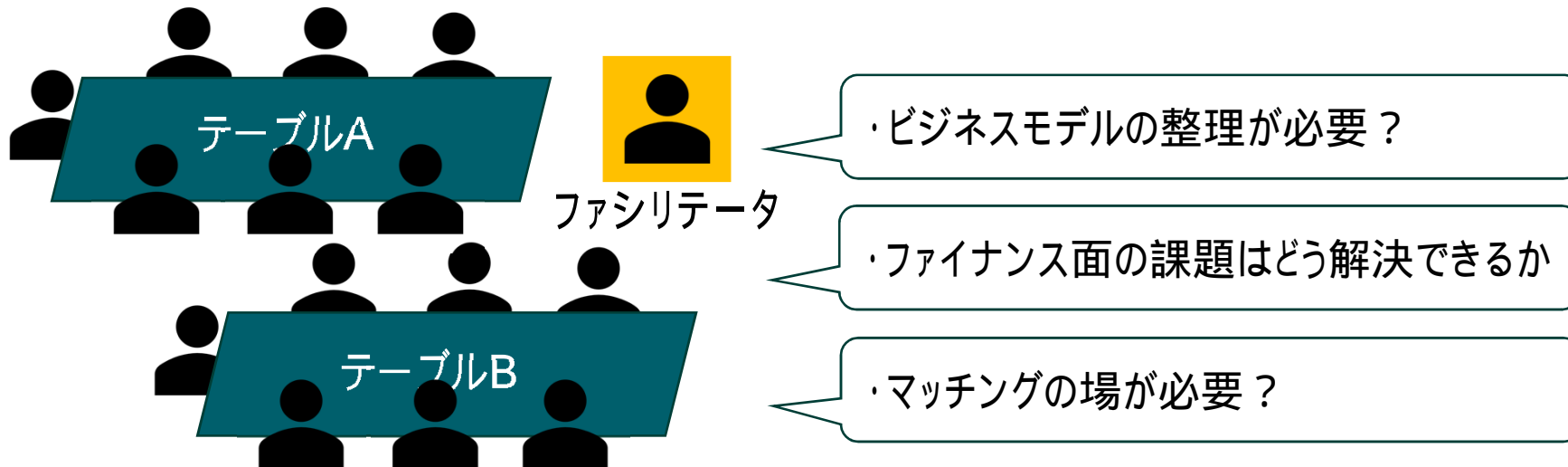
- 「家庭」、「大口需要家」、「地域」の需要地単位ごとに検討
- テーマは第1回で案を提示、その後アンケートを実施
- アンケートを踏まえて第2回以降のテーマを決定



検討の進め方 当日の進め方

当日の進め方

例．需要地「大口需要家」 × テーマ「多様な需要家への普及」



- 需要地単位 × テーマ ごとに募集 / 参加登録
- 参加人数に応じてテーブルを複数設定
- ファシリテータの進行のもと、課題の整理と解決方向性を意見交換
- 同時にネットワーキングの場も提供

実施後

- 意見交換の内容を整理、集約（個社名と発言が結びつかない形を想定）

4. テーマ案の紹介

テーマ案の紹介

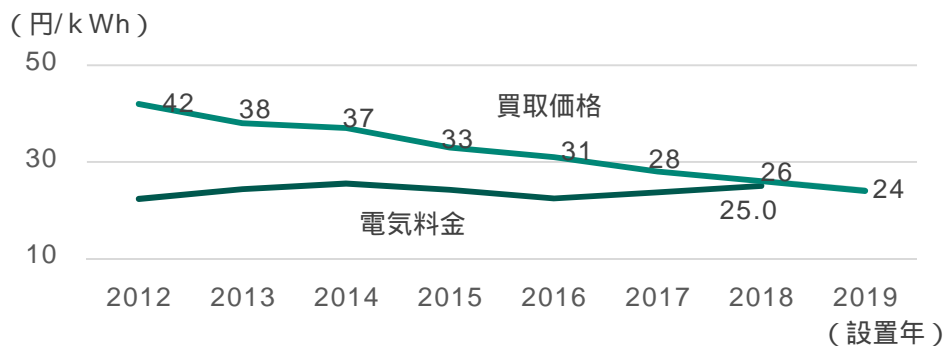
需給一体型の再エネ活用モデルの促進に向けて、以下のようなテーマでディスカッションを進めてはどうか。

	需要地	テーマ案
	家庭	FIT売電に代わる選択肢の検討
	大口需要家	多様な需要家への普及
		自家消費しない余剰電力の取り扱い
	地域	地域の課題を解決する再エネ導入

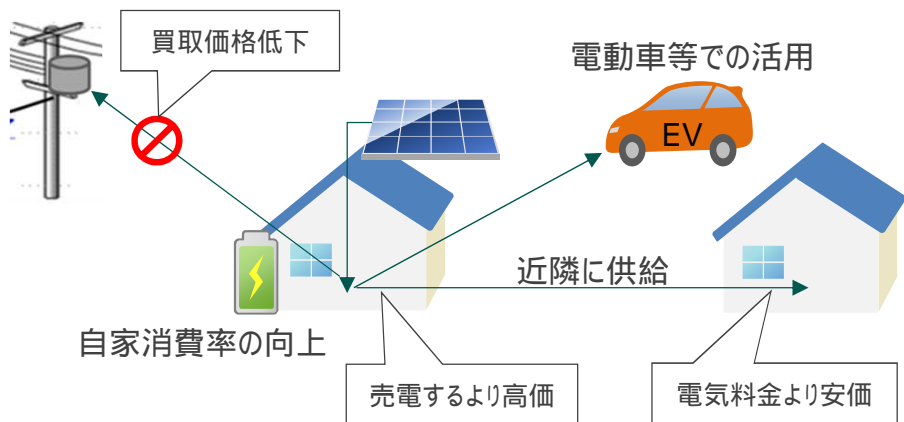
家庭 × FIT売電に代わる選択肢の検討

FIT買取価格が電気料金と同等以下になり、また卒FIT電源も現れる状況に鑑みて、**家庭で発電した再エネ電気の供給先として、FIT売電以外のモデルを検討**してはどうか。

家庭用太陽光FIT買取価格の推移



FIT売電に代わる選択肢の例



ディスカッション内容の例

サービスモデル	<ul style="list-style-type: none"> FIT売電に代わる電力の供給先は何かあり得るか
技術	<ul style="list-style-type: none"> PVと蓄電池、EV、エコキュート等の併用 自家消費量の把握方法
マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> 新たな需要家へのPR方法 既設住宅へのアプローチ方法
レジリエンス	<ul style="list-style-type: none"> 自立運転や利用者の意識づけなど運用上の課題
環境価値	<ul style="list-style-type: none"> 環境価値を見える化する方法是何かあるか



大口需要家 × 多様な需要家への普及

需給一体型モデルの普及が進んでいない需要家の原因分析・課題整理や、中小規模需要家への普及拡大策について検討してはどうか。

PV導入等に関する課題の事例



需要家A

- 長期の契約に対して事業の見通しが立たず、契約に踏み切れない



提供側B

- 導入に意欲がある需要家でも、建屋強度の問題で太陽光パネルが導入できないケースが多い



需要家C

- 多様なビジネスモデルがあり、どれが自社に適しているか比較検討ができない

ディスカッション内容の例

サービスモデル

- ファイナンス面における課題の整理
- 公共施設等の大型施設への導入

技術

- 建屋の強度、保守等における課題

マーケティング

- 第三者所有モデルの類型化、整理の必要性
- 需要家ニーズを把握する方法

レジリエンス

- 防災拠点等のレジリエンス価値のつけ方

環境価値

- 普及に資する環境価値の見える化とは



大口需要家 × 自家消費しない余剰電力の取り扱い

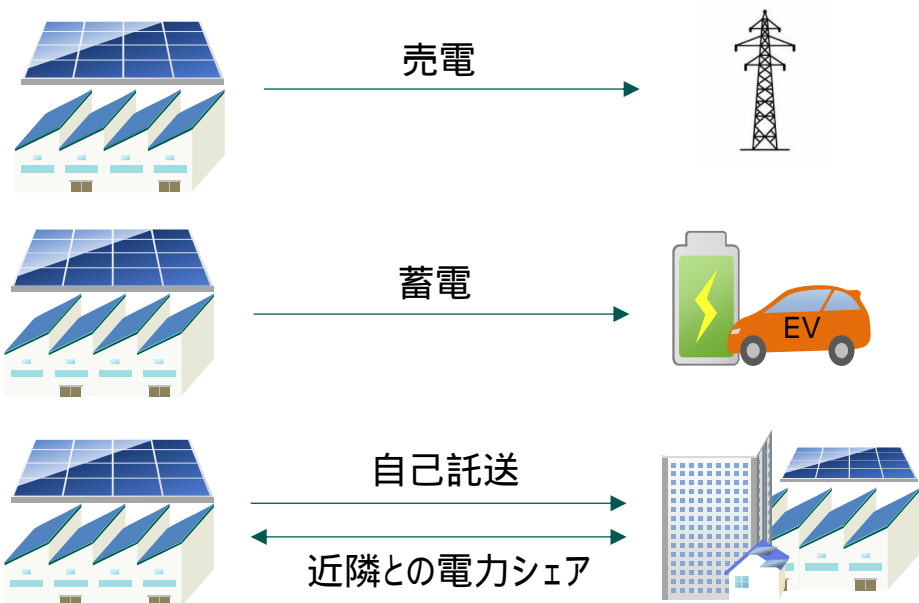
発電量と需要の不一致により発生する余剰電力の取り扱いに関する課題を整理し、導入ポテンシャルを最大限活用する方策を検討してはどうか。

PV導入等に関する課題の事例



休業日に余剰電力が発生するため、発電量を抑制せざるを得ない

余剰電力の取り扱いの例



ディスカッション内容の例

サービスモデル	<ul style="list-style-type: none"> • 自営線、系統線、EVによる電力シェア • アグリゲータの役割
技術	<ul style="list-style-type: none"> • 蓄電池、EV等の技術利活用上の課題 • 自己託送における予測、制御等の技術
手続・制度	<ul style="list-style-type: none"> • 系統を活用する上での課題 • 近隣での電力シェアを行う上での課題
レジリエンス	<ul style="list-style-type: none"> • 災害時の近隣への供給方法 • 公共施設等への供給による災害対策
環境価値	<ul style="list-style-type: none"> • 普及に資する環境価値の見える化とは？



地域 × 地域の課題を解決する再エネ導入

再生可能エネルギーと他の技術要素との連携により、地域経済活性化、レジリエンス向上、雇用の創出などの地域の課題を解決できる再エネ導入方法について検討してはどうか。

地域での再エネ導入の例



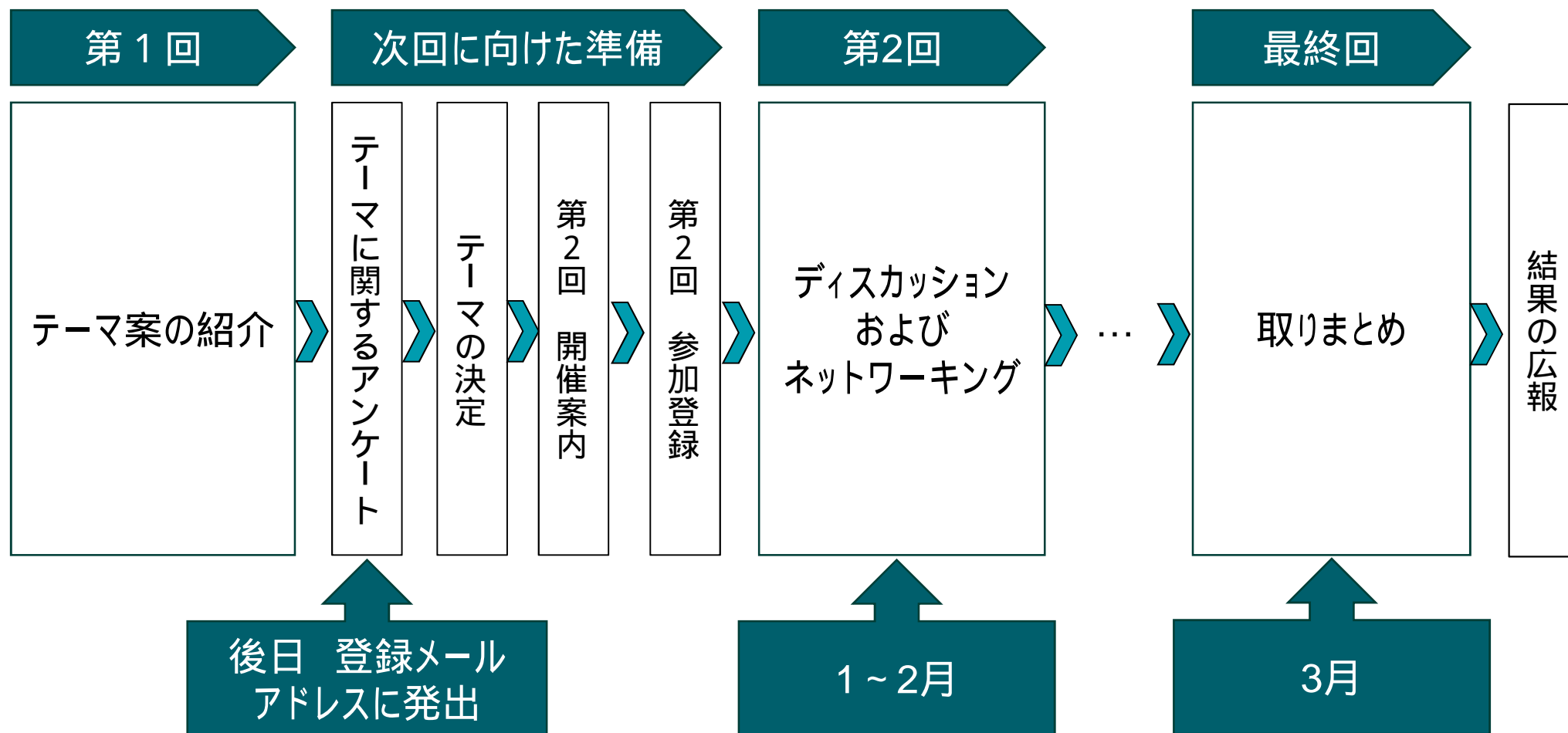
ディスカッション内容の例

サービスモデル	<ul style="list-style-type: none"> 経済的に成立するモデル構築の課題 環境志向の企業誘致や地域金融機関との連携
技術	<ul style="list-style-type: none"> 既存の地域インフラを組み込む方法 面的活用における蓄電技術や制御技術の利用
マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> 経済循環、雇用創出等の地域課題への対応 多様なステークホルダのマッチング
レジリエンス	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の優先的な給電先など、運用の在り方
環境価値	<ul style="list-style-type: none"> 環境価値、防災価値など、付加価値のつけ方
手続き・制度	<ul style="list-style-type: none"> マイクログリッド構築にあたっての検討事項の整理



5 . 今後のスケジュール

今後のスケジュール



テーマ案の紹介（再掲）

需給一体型の再エネ活用モデルの促進に向けて、以下のようなテーマでディスカッションを進めてはどうか。

	需要地	テーマ案
	家庭	FIT売電に代わる選択肢の検討
	大口需要家	多様な需要家への普及
		自家消費しない余剰電力の取り扱い
	地域	地域の課題を解決する再エネ導入



経済産業省
資源エネルギー庁



環境省